

FOCUS –より良い医療の実現に向かって–

地域医療と専門医療の二本柱をさらに拡充

社会医療法人信愛会 交野病院



大阪府交野市 社会医療法人信愛会 交野病院 院長

ほうしまるみのる
寶子丸稔先生

交野病院は、急性期・回復期・慢性期病床を併せ持つケアミックス型病院として住民の多様な医療ニーズに応えるとともに信愛会脊椎脊髄センターを運営し、地域密着型の医療に加え、専門医療の提供にも力を尽くしています。院長および同センター長を兼務する寶子丸稔先生に同院の活動についてお話を伺いました。

脊椎脊髄疾患を生活習慣病の観点から啓発

人口7万6,000人を擁する大阪府交野市において交野病院は唯一の急性期病床を有している病院であり、内科や外科、整形外科、脳神経外科などの基本診療科をそろえて同市の急性期医療を担い続けています。加えて回復期および慢性期の病床機能を拡充するなど、高齢化の進展で刻々と変化する地域ニーズへの対応にも努めてきました。

その一方で、2015年の新築移転に伴って信愛会脊椎脊髄センターを併設し、急増する脊椎脊髄疾患の治療・手術にも力を注いでいます。「急性期から慢性期、また診療科においても多角的に取り組むことで地域の医療ニーズに応える、そして脊椎脊髄疾患の専門医療を提供する。この二本柱で運営しています」と寶子丸先生は同院の特徴を説明します。

手術をメインとする脊椎脊髄センターの強みの一つは、低侵襲の術式から固定術までさまざまな術式に対応できるという点です。中でも、頸椎性脊髄症に対する頸椎椎弓形成術などの低侵襲の手術は、同センターの大きな特色となっています。また、脳神経外科と整形外科が連携して治療や手術にあたっているのも強みの一つだといいます。「両診療科の医師がそろって治療を行うケースは全国でも少ないと思います。脳神経外科医と整形外科医は疾患に対する見方やアプローチが異なりますので、お互いに協力し合うことで多くの気づきが得られ、治療の選択肢が広がります」。このような同センターの特徴が口コミなどで広がり、手術件数は増加を続けており、2020年は1,070件と初めて千件の大台を超えました。患者さんは関西圏だけでなく、遠くは東北や四国からも来院する方がいるそうです。

寶子丸先生は市民健康講座やテレビ・ラジオへの出演などを通して、脊椎脊髄疾患とその予防のための啓発活動も積極的に行っています。同疾患は日常生活に注意を払うことで防ぎうる生活習慣病であると考えられるからです。「運動不足による筋力低下で骨が崩れたり変形しやすくなったりしますし、同じ姿勢を取り続けることも数多くあるリスクのうちの一つです」。そのため今後は、同センターで生活習慣病として診療する枠組みを構築し、どの生活習慣が悪いかを診断して改善策を提供していきたいといいます。



■脊椎固定術を行うにあたりスクリー（ネジ）を正確に脊椎に挿入する最新の機器とナビゲーションシステム。こうした最新の手術機器を導入するために脊椎脊髄センターの手術室は通常よりも広くスペースが取られています。